KSKS

花の会ニュース

２０２１年１０月号
no.190

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB http://www.hananokai.info/　★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円

2022年の 花の会カレンダー を販売します

今年も、花の会のメンバーより作品を募集し、

花の会のオリジナルのカレンダーを作成いたしました。

- 見開き（Ｂ３）の大きなカレンダーです。
- スケジュールが書き込みやすい仕様です。

１本　1,000 円（税込）

送　料　１８０ 円（1本送付）
　　３００ 円（2本送付）
　　無　　料（3本以上）

カレンダーのご注文・お問い合わせは
共働舎花の会 カレンダー担当の志井までどうぞ。

電　話 ：０７２-６９２-２８５９
ＦＡＸ ：０７２-６９３-３６０３

ご注文をお待ちしています。

エッセンシャル・ワーク

毎日新聞９月23日の記事「安倍・菅政権の終わり」「仁なき政治脱却」を書いたのは、山本章子琉球大准教授。『「巧言令色鮮（すく）なし仁」（口だけで愛想がよい者に仁者はいない）という。』『（安倍・菅政権は）その国家主義的な思想や中央集権的な姿勢とは裏腹に、国ではなく自民党ひいては安倍氏個人の権力のための仁なき政治だった。』と総括して見せた。表題とかかわりがないが、時節柄、ふと目に留まった。筆者はこれに続けて、Ａ級戦犯となった戦前の平沼騏一郎首相をアナロジーさせて危惧を表明した。

切れ味の良いコメントが気を引いたが、福祉制度を振り返ると、正に「巧言令色」に彩られた文言が並ぶ中、実際の制度運用は当事者たちに苦痛を強いるものであったが、不平もなく過ごしてきた。この二日、福祉の窓口対応や制度から「外れた」方たちの話を聞いて、何でそうなるの、との違和感の中で過ごす日々であった。

戻って、エッセンシャル・ワーク（日常生活における必要不可欠な仕事）。斉藤幸平「人新世の資本論」（集英社新書）によれば『一般に、機械化が困難で、人間が労働しないといけない部門を、「労働集約型産業」と呼ぶ。ケア労働などは、その典型である。』『ケアやコミュニケーションが重視される社会的再生産の領域では、画一化やマニュアル化を徹底しようとしても、求められている作業は複雑で多岐にわたるため、イレギュラーな要素が常に発生してしまう。このイレギュラーな要素はどうしても排除できないため、ロボットやＡＩでは対応しきれないのである』。かつて、湯浅誠を講師に招き講演会を開きました。その時、人間の仕事がほとんどなくなっていく中で、残される部門があると当時としては目から鱗の話しがあったのを思い出す。今、現場でやり取りされるメンバーとの会話・コミュニケーションは、徐々に希少価値となっていく「仕事」の質とかかわることなのか。このケア労働・感情労働は、何をもたらそうとするのか。社会の質と大きくかかわるものとなりつつあることを伝えたい。

（やまだのかかし）

日中活動支援の報告　生活介護

黒田泰代さんを偲んで

私が最後に黒田さんにお会いしたのは、亡くなられる１週間ほど前に病院受診に同行させてもらった時です。むくみが全身に出ておられ、自力歩行も難しくなっていたため、介護タクシーを使って弟さん、妹さんと病院に来られ、車椅子での受診でした。食事も普通の食事は食べることがほとんどなくなっていて、栄養補助ドリンクが中心の食事だったようですが、その日は、「前日に珍しくごはんをたくさん食べた」と妹さんが言っておられました。時折いつもの人懐っこい笑顔を見せてくれて、気分はいいようでした。体調が悪化してから、自宅から出ることがないと聞いていたので、診察の合間に少し病院の外を散歩すると、目を輝かせて周りを見ておられました。

そして、2021年8月20日、容体が急変し、救急車で病院に運ばれましたが、そのまま天国へ旅立たれました。56歳でした。

心臓疾患を患っておられ、この４～５年、体調不良時は入院・自宅療養をされながら、体調が回復しては通所するといったスタイルでした。体調が優れない中で、黒田さん自身が、どんな生活を、どんな最期を望んでおられたのかはわかりません。自宅では通所用のかばんを指差し「花の会に行きたい」アピールをしているとのことで、メンバー・ワーカーみんなで復帰されるのを待っていました。治療に関しても、３月に入院された際は、以前は受け入れていた点滴や注射を本人が拒否され、退院して投薬のみの治療しかできなくなりました。しかし、３年前にお母様が他界されてからは、弟さん・妹さんが支えながら、そして、訪問看護サービスを受けながら、ご両親の希望であった自宅での生活を最後まで貫かれました。

私たちに何ができたのか、できなかったのか…今はまだ整理できていません。

1989年から30年以上花の会で過ごされた黒田さんの支援記録を読み返すと、活発に活動に参加されていた記録が残っています。「学校販売」に行くのが大好き、手先が器用で独特のタッチでたくさん絵を描いておられました。でも、自分の気に入らないことは絶対に譲らない意志の強さを持っていて、その明るい性格と素敵な笑顔で、周りのメンバー・ワーカーや販売先の先生にまで愛されていた黒田さんでした。

今まで、ご家族と一緒に、そして、黒田さんと関わっている方たちと、その時必要と思われることを積み重ねてきました。こうやって黒田さんが私たちにその生涯を示してもらえたことを大事にしたいと思います。

花の会で一緒に活動している多くのメンバー一人ひとりにそれぞれの人生があり、それぞれの希望があるはずです。「今の生活を継続できることが最善」「いろいろな福祉サービスを使うことが豊かな生活」といった安易な考えに流されず、一人ひとりに寄り添うことの大切さをもう一度考えていきたいと思います。

泰代さん、ありがとうございました。ご冥福を心からお祈りいたします。

（日中活動支援統括　山口　由美子）

今までの経験で学んだこと

ワーカーで連携し、メンバーの思いを汲んで寄り添って、みんなで成長していこう ！

私は大学で社会福祉を学び、結婚するまでは児童養護施設で児童指導員をしていた。その後、出産・育児のため数年は働いていなかったが、そろそろ働こうかなと思った時に、運よく花の会の求人に出会った。第２共働舎花の会ができてすぐのことだったので、もう１０年以上前の話だ。障害者分野で働くのが初めてだったので、当時はわからないことだらけでよく悩んでいたし、気持ちに余裕がなかった。そんな私が今まで仕事を続けて来られたのは、良い仲間（メンバー・職員・家族等）に恵まれたためだと思う。人と関わる仕事は大変なこともあるが、それ以上に楽しさややり甲斐を強く感じている。

いつからか私は花の会では『ベテラン』に分類されるようになったが、正直なところ実感がない。今でも色々な発見があり、驚かされることが多いからだ。これまで色々なメンバーと関わってきたが、好きなこと・苦手なこと・気になるもの等みんなそれぞれ異なり、表現方法も様々だった。言葉で自分の思いを伝えられるメンバーもいるが、メンバーの多くは思いをうまく伝えられずにいると思う。自分の思いが相手に正しく伝わらず理解されないと、メンバー自身がしんどさや辛さを感じ、感情を爆発させてしまうのではないか。

メンバーがとった行動には、何らかの理由がある。だから、何かがあった時はまず「どうしたの？」と尋ねるようにしている。『嬉しい』『自分に注目してほしい』『体がしんどい』『気持ちがしんどい』『不安』『苛立ち』等、内に秘められた内容は様々で、言葉での返答が難しくても、表情やしぐさ、視線などにヒントが隠されている。「〇〇？」「□□？」と一つずつ確認していくと時には正解に繋がることがある。まだまだ正解率は低いが、このやり取りを重ねることで、メンバーは自分の思いを知ろうとする存在がいることを知り、安心感を得られるようになる。しっかりと話を聴き寄り添うことで、ワーカーとの関係も少しずつ強化されていく。

ワーカー一人では対応に限界があるので、ワーカー同士の連携は必須だ。状況を観て判断し、臨機応変に対応しなければならないこともある。班のワーカー、時には事業所内のワーカー同士声をかけ合ったり、アイコンタクトを取り、支援に抜け落ちがないように努めなければならない。ワーカー一人ひとりがメンバーの発しているサインを見落とさないように気を付け、何を表現しようとしているのかをしっかりと考え、気付いたことはワーカー間で情報共有をしていく。うまくいかない時もあるかもしれない。しかし諦めずに関わっていこう。これからもメンバー・ワーカー共に一緒に成長していきましょう！

（第２共働舎花の会　出淵　里美）

児童支援の報告

「あさがおクラブ」 新事業所としてスタート！！

2021年10月1日より、あさがおクラブは、新規事業所として再スタートを切りました。今まで（９月末まで）、あじさいクラブ・あさがおクラブは、事業の管理運営やサービス提供に関する指導・監督などが一体的に行われているとして、管理者・児童発達管理責任者１名を兼務という形で配置していましたが、今後はあさがおクラブに管理者・児童発達支援管理責任者を配置し、運営することになり、山口昌亮があじさいクラブより異動して担当することになります。より楽しいクラブにするよう、頑張ります。

（あさがおクラブ　山口　昌亮）

事業所評価アンケートについて

あじさいクラブ、あさがおクラブ、さくらクラブ各所にて、事業所評価アンケートを実施し、結果をお持ち帰りいただくと共に、花の会ホームページへのアップを行いました。児童発達支援・放課後等デイサービス事業において、事業所評価を行うことが求められており（未実施は減算）、どこの事業所も取り組んでいることではありますが、「取り組まなければならない」から、取り組むのではなく、結果を受け止め、またその言葉の背景を考え、自分たちの取り組みの中で足りないことを分析、検討、修正する貴重なものと捉え、取り組みます。

評価アンケートで疑問点が多く寄せられたのは、各種マニュアルの整備状況、他事業所・学童等地域との交流事業の有無、安全確保について・・の３点です。コロナ禍において、様々な行事や交流が行えず、ご利用者、ご家族の方の不安や疑問に答えられる場が少なくなっていますが、都度の説明を心がけるようにしていきます。また取り組みについて、積極的に情報発信する必要を改めて感じました。現在、年間３～４回「クラブだより」を発行していますが、行事・活動報告はもちろんのこと、いただいたご質問等に対して、紙面を通じて答えさせていただくことで、全体化できるように取り組んでいきます。

（さくらクラブ　平田　昌史）

ちょっとニュース

花の会ニュース（児童部門ページ）、クラブだよりの記事調整は管理者が行ってきましたが、2021年度後期より、「児童部門広報担当」を設置し、話し合いによって、企画を考えることとしました。それぞれの紙面において、議事内容を検討した上で、各クラブの楽しい様子や情報発信等、行えるように考えていきます。ご意見等、よろしくお願いいたします。

（広報担当：　あさがおクラブ　岩崎　彩）

地域生活支援の報告　グループホーム

グループホームのメンバーの日頃の様子から

グループホーム「ぽこ」にて

メンバーＡさん

自分の気持ちを言葉で表現できず大きい声で叫びながら壁やドアに体当たり、椅子を投げたりしていました。その頃は落ち着かないと、世話人の手をずっと握っている習慣がついていました。不調の原因と考えられる事柄があったため、ここ数か月関わりのある世話人で対応を共有して支援を行いました。テンション高めですが、機嫌よく過ごせるようになってきています。手を握る行為は夜中の夢見が悪い時に有りますが、ほぼ無くなっています。他メンバーとも目立ったトラブルも無く過ごせるようになってきました。

就寝前に一人のメンバーの部屋のドアを面白がってノックするのですが、そのメンバーがリビングにいるのにドアをノックして笑いを誘い微笑ましい場面もあります。

“決まった時刻に就寝する”と自分の中で決めているらしく、その時刻を過ぎると時計の針を戻して就寝するといった行動があったり、夜中のトイレ覚醒時と朝の出発時に必ず時計を30分から１時間進めていて、世話人が見て「びっくり！」という日がしばしばあります。少しずつですが、会話のキャッチボールができるようになってきて、質問に「そうやな！」と返したり、何か行動を起こす時「失礼します」等、言葉が増えています。

周りの環境に左右される傾向に有るため、その都度対応を検討して支援していきます。

メンバーＢさん

他メンバーのことが気になって細部にわたり上から目線で色々言ってしまう性格なので、世話人と本人と相談の上、“あまり言わないようにしよう”ということで、言いたくなったら“怒って言わず優しく言う”を心がけて、ここ数か月頑張って実行してくれています。苛々したら世話人が話を傾聴しストレス解消して、どうしても我慢できない時は部屋に入って気持ちを落ち着かせています。自分の気性をコントロールできるようになってきています。

世話人によって態度が違うところが、今後の課題です。　　（フラワーホーム世話人　中山　秀子）

グループホームの世話人、地区担当として

今年度からグループホームの地区担当者として「ぽこ」の支援に関わることになり、初めのうちは異性のメンバーの生活を見守ることにどこまで関わればいいのか、がむしゃらに自分のできることをひたすら行いました。その中で、自身の言葉で意思を伝えることが難しいメンバーに「ぽこ」の世話人がしっかりと寄り添う様子が見られました。メンバーの方々もそんな世話人に対して自ら手を握り、傍にいてもらうだけでも安心している様子もとても印象的でした。また、メンバーと共に生活をしていく中で、その人の楽しみを見つけるために、手芸や折り紙などを使ったレクリエーションも、私自身の支援を振り返って今まで試したことがなかったので、新鮮な驚きでした。そして世話人同士のSNSを使ったやり取りが頻繁に行われているため、こちらからの連絡や相談が行い易かったのもとてもありがたいことでした。今後も、メンバーの生活と世話人が働きやすい職場であることを目指して、地区担当者としての業務を行います。

（フラワーホーム世話人　川畑　智亮）

グループホーム当事者会『四季路』のメンバーと、対談しました。

グループホームのメンバーで組織している当事者会『四季路』。その中心メンバーの２人にホームでの生活について聞いてみました。

１人目は男性メンバーMさん。

橋　本：最近のホームの生活はどうですか？
Mさん：楽しいよ。
橋　本：何が楽しいですか？
Mさん：みんなと仲良くしている。
橋　本：誰と一番仲がいいですか？
Mさん：Ｎさん。

橋　本：最近ホームでカラオケをしてるらしいですね。
Mさん：してるよ。ここで（世話人室）。
橋　本：みんなで歌うんですか？
Mさん：みんなでしてる。
橋　本：ホームで何か困ったことはありませんか？
Mさん：ないな。
橋　本：何も困ってないんですか？
Mさん：困ってないよ。
橋　本：楽しく生活できてるんですね。よかったです。これからもこのホームで暮らしていきたいですか？
Mさん：うん。
橋　本：今のメンバーと一緒に生活していきたいですか？
Mさん：うん。
橋　本：Mさんは今年いくつでしたっけ？
Mさん：51 歳。
橋　本：これからやりたいこととか、ありますか？
Mさん：早く四季路の勉強したいわ。
橋　本：そうかー。緊急事態が終わったらできるかもしれないですが･･･。11 月くらいからできるように、そろそろ準備をしていきますね。四季路で何かしゃべってという話になったらしゃべってもらえますか？
Mさん：いいよ。
橋　本：四季路は何が楽しいですか？
Mさん：みんなで歌うのが楽しい。
橋　本：四季路でやりたいイベントとかありますか？
Mさん：旅行。
橋　本：旅行行けてないですもんね。どこに行きたいですか？
Mさん：遊園地。

橋　本：長嶋スパーランドとか？鈴鹿サーキット？
Mさん：うん。
橋　本：ジェットコースターは怖くないですか？
Mさん：怖くないよ。
橋　本：お化け屋敷は？
Mさん：怖くないよ。
橋　本：そうなんや。ホテルで何食べます？
Mさん：いろいろ。肉とか。今行かれへんもん。
橋　本：早く行けるようになるといいですね。

続いて２人目は女性メンバーK さん。

橋　本：最近のホームの生活はどうですか？
Kさん：まぁ、なんだかなぁ・・・（苦笑い）。他のメンバーが落ち着かない。私はみんな穏やかに暮らしたい。ホームは私たちの家だから、ゆっくりご飯が食べたい。他のホームではどうしているのか、そこが聞きたい。
橋　本：そうですね、四季路が再開できたらまたそういう話もしていきたいですね。11 月から再開の準備をしています。
Kさん：早くみんなで話がしたい。いろんな話が聞きたい。
橋　本：そうですよね。四季路でみんなと話するのはやっぱり楽しいですか？
Kさん：ん、やっぱりいろんな話が聞けるからね。もう長いことやってないけど。
橋　本：コロナがもう少し落ちいたらイベントとかもやりたいですね。何かやってみたいことはありますか？
Kさん：お花見してみんなでお弁当食べたりしたい。みんなで話し合って決めていきたい。新しいホームの見学もしたい。
橋　本：またみんなで企画しましょう。ホームの生活のいいところはどんなところですか？
Kさん：世話人さんがよくやってくれる。自分の家みたいなもんやから、落ち着いて好きなことして過ごせるのが良い。今はいろいろあるけど。
橋　本：Kさんの思いとしては、ホームが自分の家ということなんですね。自分がしんどい時に話はできていますか？

Kさん：世話人さんに聞いてもらってます。

橋　本：話すことがストレス発散かな？他にストレスを解消することはありますか？

Kさん：縫物が好きなので、やっている時は気分転換ができる。

橋　本：それはいいですね。ホームでみんなで何かやりたいことはありますか？

Kさん：旅行に行きたい。温泉とか。

橋　本：なるほど。今行けないからね。実現したいですね。これからもグループホームで暮らしていきたいですか？

Kさん：暮らしていきたい。100 歳まで生きたい！

橋　本：いいですねー。他の人の目標になってください。

『レスパイト』って？　楽しいな！

朝夕はすっかり涼しく、いや肌寒いくらいになりすっかり秋めいてきましたね。

レスパイトの報告をする前に、今更ですが『レスパイト』を調べてみると、Respiteは休息・息抜きという意味で、地域で在宅介護・医療を受けている方やご家族や介護者の休養を目的とした短期入所とありました。

私たちスタッフは、利用者様やご家族様が少しでも休息ができるように心がけていきたいものです。

余談が長くなってしまいました。レスパイトの近況を報告します。

８月には毎年恒例の花火を中庭でしました。ご利用の度に「この日、花火！」とニコニコしながらカレンダーを指差し楽しみにしてくださっている方がいらっしゃって、夏の思い出にとみんなですると「*きれい！*」とか「*すご～い！*」とかそして言葉に出さなくてもみんなの笑顔が楽しさを物語ってくれていました。

９月には、10 月のハロウィンに向けて飾り付けをしたり、みんなでパンプキンのぬり絵をしたりと季節を感じていただきたく、色々と楽しみを作っております。

外出もなかなか難しいところですが、お散歩できそうな場所をスタッフみんなで探し出し、土曜日・日曜日等の時間に余裕がある時にはお出かけし気分転換ができるよう、また、自然を楽しめるように心がけております。

コロナ禍で大変なのはどこも同じかと思いますが、こんな時だからこそ

- なんだかレスパイトに来ると落ち着くね
- なんだかレスパイトに来るといつの間にか笑ってるね
- よくわからないけどレスパイトが好き

と言っていただけるように、スタッフ一同頑張りたいと思います。

（レスパイト　久保　富久子）

10 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

就労相談支援の報告

私　の　し　ご　と

三島地域若者サポートステーション（サポステ）　田淵　彩子

今年の４月からサポステに配属となりました。

障害者手帳を持っている方・持っていない方・持っているけど言わない方、様々な登録者の方の就職に向けての相談に乗っています。

相談内容も多岐にわたりますが、例えば何回も面談をして色々な提案をしても一歩も就職に向かって進まないケースでは、思わず「え、働きたいんだよねぇ！？」と喉まで出かけそうになった時があります。

今年の３月までは、高槻市障がい者就業・生活支援センターに所属していました。

振り返ってみると、その時もなかなか就職に向けて進まないケースはあったのに、登録者の方に対してそんなことは感じていなかったように思います。

もしかして「その人に障害があるから」そう思わないようにしていたんだろうか…？

自分の中の差別めいた感覚や、自分自身が手帳の種類や診断名で対応を変えていたことにぎくりとしました。

手帳の種類や診断名は、その人の特性を知るための大切な情報ではあるけれど、その人の気持ちや経験してきたことは向き合わないと分からない。そういう意味では、手帳の有無は必ず重要視しないといけないことではないのかもしれません。

サポステで働く中では、よりフラットな視点が必要だなと日々感じています。

障害の有無ではなく、その人の思いに向き合うこと・その人がどんな人なのか知ることを大切にできる支援者を目指していきたいです。

京都で防災体験

７月 17 日(土)、京都市民防災センター（防災体験）・京都水族館見学ツアーに行ってきました。

防災センターでは普段できないようなリアルな体験をしました。映像体験、地震体験、都市型水害体験、土砂災害体験、消火体験の５つの体験をすることができました。地震体験では３人一組になり全員が体験したのですが、テーブルの下に大人３人が入るのは難しく、テーブルから頭が出ていたり、座り方によっては体が安定せずテーブルから体がほとんど出てしまっている人もいました。消火訓練でも全員が消火器を使っての訓練をし、消火器を使ったことのない人も多くいたので、良い経験になりました。また、人が体験しているのを見ることによって色々と感じることも多くあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

その後防災センターの近くで昼食を取り、そのまま歩いて京都水族館に行きました。

コロナ禍であまり外出できない中での久しぶりの社会見学で、全員楽しく過ごしていました。その後しばらくの間は、防災センターや水族館の話で持ち切りでした。

（ワークたんぽぽ　小林　千賀子）

就労生活ワーキングの取り組み

今年度から高槻市自立支援協議会で就労生活ワーキングがスタートし、当センターはサブリーダーとして私と水谷が参加させてもらっています。一般就労や福祉的就労している方の生活相談について、相談支援事業所と就労移行支援事業所、就労継続支援Ａ・Ｂ 型事業所と当センターが、どのような支援機関がどのような取り組みをしているのか？どのようなサービスがあるのか？等の情報共有をし、ご本人さんにより良いサービス提供や、事業所の連携をスムーズにすることを目的として集まっています。事務局は高槻市が担ってくれています。

現在まだ２回の開催で、そこまで議論が進んでいませんが、就業・生活支援センターの立場から見えるのは、就労が順調だからこそ福祉サービスを利用する必要や機会がなく、会社と家の往復になりがちな生活をしていたり、困りごとがあっても相談できずに困りごとが大きくなってしまったりする場合があるということです。当センターは就業にまつわる生活相談もしていますが、年間 100 名以上の登録が続き、きめ細かな対応ができにくくなっています。また相談支援事業所も大変な状況で、新規相談を受けられない事業所もあると聞きます。当センターは、たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの事務局を担い、就業生活を地域ネットワークで支援できるように取り組んで来ました。相談支援事業所の新規相談を受けられない状態の解消には、違うアプローチも必要だとは思いますが、福祉的就労でも同じような取り組みができれば、さらに支援の輪が広がります。マンパワー不足の問題はありますが、みんなで工夫し合い、困っている人が相談でき、希望の生活を実現できるような体制を目指していきます。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター　陸野　肇）

フォルツァ

『ひまわりプロジェクト』

このプロジェクトは、もともとは東日本大震災後、仕事がなくなってしまった福島県の障害者施設を応援しようと始まったものです。福島で栽培されたひまわりのタネを全国で増やして、福島の復興を支援する取り組みに、フォルツァとアレグリア協働で参加しました。

きっかけは、フォルツァの卒業生が働くグンゼ株式会社メカトロ事業部さんが企業の CSR 活動の一環としてこのプロジェクトに取り組まれていて、卒業生がひまわりを育てる流れがあり、一緒にやってみようというところからでした。

まず高槻市社会福祉協議会の玄関先の植え込みの場所を、フォルツァのメンバー２人とスコップで耕したのが８月11 日の朝のこと。まずは土壌改良からと、土の復活材や草花用の土、石灰（味付け海苔の袋に入ってる！）とか、古くなったお茶っ葉などを混ぜ込んで、根が少しでも深く張れるように掘りました。けっこうな力仕事で、それでも黒くいい土が出てくると達成感の得られる作業でした。途中、カブトムシ？の幼虫もお出ましになって、歓声があがりました。種まきはお盆休み明けの８月17 日。雨模様の中、指で小さな穴をあけ、80 粒ほどを蒔いてあとは成長を祈るのみです。タネの入手が遅くなり、大雨続きで心配しましたが、いくつかの小さな芽が出てきました。開花の時期は遅くなりそうですが、花いっぱいになりますように。そしてタネの収穫で笑顔がつながりますように。社会福祉協議会へ出向かれることがありましたら、ぜひご覧くださいね。

（就労支援センターフォルツァ　時任 玲子）

サポステ※と高校の連携について

三島地域若者サポートステーション（※以下、サポステ）では、今年度の上半期、通信制高校で就職に向けての講演をさせていただいたり、定時制高校で就職活動の授業や支援に関わらせていただくなど、在学中の高校生への支援・情報発信の機会を多くいただきました。定時制高校では、就職活動が途中で続けられなくなってしまった生徒さんに対して、サポステでの個別対応に繋がったケースもありました。

サポステは若年層の方が支援対象ですが、そもそも若年層の方は、進路や就職について相談できる場所が学校以外にもあるということを知らない方も多いです。故に、少し困っている段階では支援機関に繋がらないことも多くあります。また、思春期特有の両価的な気持ち（大人に相談したい気持ちと、相談したくない気持ち）を持つことが多く、支援機関に繋がる機会が遅くなってしまうというケースも多くあります。

今回、高校生が在学中から学校を卒業した後でも相談できる場所があること・大人でもたくさんの人が相談に来ていることなどを伝えられたのはとても良い機会でした。

今回のアプローチが、ご本人にとっての相談の敷居を少し下げること、ひいては支援機関の早期介入に繋がることを期待しています。

（三島地域若者サポートステーション　安岡　大輝）

はいびすかす

『ガイド支援』について

移動支援での社会活動に参加すると、環境から与えられる応答からの偏見や無理解を感じることが多々あります。最近では過敏に反応される方も多く、以前よりも増して警戒的な態度を示して来られる方に悲しい気持ちにさせられることが増えています。それに対する対応としては、本人と周りへのできる限りの配慮、理解者・賛同者を増やしていけるよう伝えていくくらいしかできていませんが、お互いに気持ちよく過ごせる本人の幅を狭めない社会参加をと志しています。

希望の家メンバー　作

外的環境によって不安、不穏になられることも多く、一瞬の判断を必要とされる時には胸中と立ち向かうことがありますが、自身に置き換えコミュニケーションによって隠されているメッセージや表現方法を回想、見つけられるよう繰り返し歩み寄っていく努力を惜しまないよう心がけます。

実践を努力するだけでは報われないと感じる場面もあり省みる日々となりましたが、自分にできることの精一杯を行い、学びや気付きを与えていただいている分、たくさんの方に笑って過ごしてほしいと望みました。

私との会話やコミュニケーションで楽しく笑ってくださっている様子を見ると、前向きな気持ちになれ、「次はどんな関わりをしてみよう。」とこちらも鼓舞させていただけます。

誤学習を改善しようと健常者優位の考え、それぞれの価値観によって無理解・無知から生じる虐待とならないように、支援現場における課題や悩みを共有できる風通しの良い環境を目指し、支援の質の向上に繋げていけたらと思います。

特性、環境へは女優？？？になって向き合い楽しみます。それぞれのアイデンティティを大事に受け入れ、心には同一に寄り添えるよう、自分が選んで決めた場所で精神の向上を図り精進していきたいと思います。

（はいびすかす　菅原　幸子）

法人の報告

「ハラスメント防止宣言」を採択

10月16日(土)、職員全体会議において、「虐待防止宣言」と共に、『ハラスメント防止宣言』を法人より提起し職員の皆さんの承認を得ました。何故、今、職員間のハラスメント防止を確認する必要があるのか、十分な議論ができませんでしたが、潜在的に「存在する」というだけでなく、積極的に防止を意識化していこうという意思表示です。骨子は下記のとおりです。詳しくはホームページでご確認ください。（山田　義昭）

【宣　　言】

社会福祉法人花の会のすべての職員は、ハラスメント行為は個々人の人権にかかわる問題であり、職員の尊厳を傷つけ職場環境の悪化を招く、ゆゆしき問題であることを認識しています。障害者福祉に取り組む場としての事業所等において、ハラスメント等を発生させない環境づくりを目指して、ハラスメントとなる言動や行為を行わない決意を表明し、その防止のためのできる限りの配慮と不断の努力を行うことを宣言します。

『グループホームの大再編に反対！』
署名に取り組みましょう

去る10月8日、府下・近隣の有志により、現在進行している厚生労働省を中心とするグループホームの制度改悪の動きを情報提供いただき「グループホームの再編に反対する緊急行動ネットワーク」を立ち上げました。行動提起として、緊急署名活動を展開することとなり、多くのメンバーが生活する場となっているGHを、何とか守っていきたいと思っています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

― 別紙の署名様式をご参照ください ―

【呼びかけ文】抜粋

1989年、グループホーム制度は、「日常生活における援助を行うことにより、知的障害者の自立生活を助長することを目的」として創設されました。そして、グループホームは地域生活における生活の場として位置づけられました。制度化されて30年以上が経ち、まだまだ課題は残しながらも、現在では全国で14万人以上の人がグループホームで暮らしています。入所施設から地域移行した人と家族から自立した人です。

今、グループホームの再編が検討されています。その中には、グループホームで暮らしている人に大きな影響を及ぼす内容があります。

（検討されている見直し案）

・障害支援区分が低い中軽度の人は、訓練を目的としている「経過型」の利用となり、３年などの一定期間を経たら、グループホームで暮らせなくなる。

・障害支援区分が高い重度の人は、グループホームの定員が最大１０名の現在よりも大規模なグループホームで暮らす可能性がある。また、個人を対象にしたヘルパーの利用が制限される。

これだけの大きい変更があるにもかかわらず、グループホームで暮らしている人やグループホームを運営する事業者の意見は聞いていません。厚生労働省が主導した検討委員会の構想だけで、グループホームのあり方が変わるとしたら、大きな問題です。

（山田　義昭）

寄附のお礼

堀田後援会長より絵本の「原画」2点

去る９月２８日、堀田和喜　花の会後援会長より絵本の原画を寄贈いただきました。

『えほん自然科学館７　植物「しょくぶつもいきている」』、作者は、堀田満様、堀田会長のお兄様で、賞にも輝いている作品だそうです。

第２共働舎花の会に展示させていただいていますので、機会がありましたら、是非、ご鑑賞ください。　（山田　義昭）

虐待防止宣言について

先日(10 月 16 日)、職員全体会議があり、虐待防止宣言を提案しました。これまで発生した虐待・不適切支援の経過を振り返り、全職員で虐待に対する考えを共有し、虐待防止に取り組んでいこうと確認をしました。虐待防止宣言は、主に各部門の管理者が参加している会議の中で提案があり、参加者の意見を集約して１つにまとめました。職員の虐待に対する感度・問題認識は、継続して実施している研修や支援会議等の取り組みで、以前と比べて上がっている実感があります。しかしながら全事業所、全職員が同じレベルの感度・問題認識を持っているわけではないこと、職員の入退職もあるため、不断の努力が必要です。

職員一人ひとりが宣言の内容を理解すると共に、法人全体で虐待防止に取り組んでまいります。

虐待防止宣言

私たちは、「ともに学び　ともに働き　ともに生きる」を理念として掲げ、地域社会に参加することを拒まれ行き場のない「在宅」の状態を解決する作業所作り運動から始まりました。障害の種別や程度にとらわれず、楽しく働き、豊かに暮らせる、気軽に相談ができることを事業化し、人としての尊厳を認め合い、当たり前の暮らしを実現するために今日まで活動を行ってきました。

近年、「虐待の認定」を受けることが多々ある状況を真摯に受け止め、二度と繰り返さないために、以下の取り組みを行うことを宣言します。

（人権）

１　私たちは、虐待を人権侵害ととらえ、いかなる理由があってもその権利の抑圧・侵害・略奪・隠遁を許しません。また私たちは自らの先入観や偏見を排し、メンバーの意思・自己決定を尊重します。意思表出が困難な場合にも、常に最善の方法を用いて権利を擁護します。

（組織）

２　私たちは、虐待を法人全体の問題ととらえ、抜本的な解決法を見つけ出します。また、職責に関わらず互いに指摘し合い、話し合える職場風土を構築します。

（研修）

３　私たちは、虐待を知識不足ととらえ、差別や虐待について正しい知識を得ると共に、最良の支援実践を行うために、自らの人間性を高め、障害理解・支援技術の向上をはかります。

（通報）

４　虐待もしくは虐待が疑われる行為を発見した場合は、いちはやく通報すると共に、メンバーの保護、通報者の保護を行います。

2021 年 10 月 16 日
社会福祉法人花の会
理事長　山田　義昭

法人職員全体会議、初のオンラインにて実施しました

2021 年 10 月 16 日(土)、法人職員全体会議を初めて「オンライン」で開催。午前中に各事業所の上半期総括、午後からは、人権・権利擁護について・・虐待防止宣言、ハラスメント防止宣言の採択。そして支援や法人の在り方についてグループワークでの意見交換。グループホームの再編問題、SDGs についてなど、多岐にわたるものになりました。

花の会で勤務する職員は、非常勤の方を含めると 250 名を超え、他部署だけでなく、同じ部署でも勤務形態等により顔を合わせる機会がなく、法人職員全体会議が「初めまして」の場になることもあり、顔が見える関係であることは、支援の一助となります。しかし法人職員が一堂に会して会議を行うことは、意思疎通、情報・課題共有を図るだけが目的ではありません。スケールメリットを最大限活かし、いかに法人理念「共に学び、共に働き、共に生きる」をそれぞれの事業において形にするのかを全体で考える貴重な場です。長時間かけて行ったこの会議をどのように活かすのか、職員一人ひとりが考え実践していく必要があります。1 歩、半歩でも前に進めるように・・と改めて考える時間となりました。　（さくらクラブ　平田　昌史）

高槻市牧田町で子育て支援の事業所が始まります
（事業所:子育て支援 タイム）

高槻市牧田町の富田団地の一角で、『子育て支援　タイム』という新規事業所を始めます。事業所名の由来は、ハーブのタイムから取ってきており、花言葉は「希望」です。子育て支援タイムでは、地域の子育てをしている保護者のサポートを中心に、希望ある子どもたちの成長をサポートしたいと思います。

先日(8 月 27 日)、スーパーボールすくいや輪投げなどを無料で楽しんでもらえるプレイベントを実施しました。たくさんのご家族や子どもたちに遊びに来ていただきました。保護者の方とお話をしている時に、「子どもたちが安心して遊べる場所がほしい」、「保護者の集まれる場所があったらなぁ～」などとたくさんのご意見をいただきました。

プレイベントのご意見を参考に、今後は『保護者の交流を目的としたカフェ』のオープンを目指して、現在準備を進めているところです。短時間の営業となるかもしれませんが、たくさんの方に遊びに来ていただける、希望に溢れた事業所を目指していきたいと思います。

事業所　**子育て支援　タイム**

住　所：高槻市牧田町 7 番 54 棟 106 号

連絡先：072-668-4632　（仮）

花の会の報告

寄稿

家　族　の　想　い

「大事にしてやってほしい」

田寺　直美

『家族の想い』とのことで、淳が今日までいろんな人と出会いお世話になり、淳自身によって周りの人びとに影響を与えていった経緯についてお話します。

1983 年、淳は富田林で誕生しました。出生時は正常だったのですが、身体をゆすらないと泣き続ける、音への異常な反応、水玉模様に関心を持つなど変わった赤ちゃんでした。

１歳で歩いた頃から、どんどん行ってしまう、言葉が出ないなど、当初寝顔だけ見て「可愛いやん～」と言っていた夫も、淳を外に出し走り回るのを追う自分に同情的な目を向ける人々の視線を感じ、気付きました。３歳前には自閉症と医者から判定。

幸い近くに住む療育者と出会い、みんなの中に入れるべきと言われ保育所に入所、小学２年で健常児と学べる統合教育を実施する高槻市に転居しました。すぐにクラスの子らが遊びにきてくれて、淳の妹も入り、毎日賑やかでした。クラスの中で居場所があり、淳によってクラスの皆もやさしく変わっていくのを感じました。

養護学校高等部でも熱心な先生と出会い、淳の良さを引き出してもらいました。そして「花の会」に来て 20 年。淳のよい時悪い時いろんなワーカーさんに助けてもらいました。

淳は何も語らないけど、家族は変わりました。夫は自閉症児キャンプに参加したり、養護学校の PTA を引き受けたり、今は障害者の陸上クラブを手伝っています。淳は運動が好きそうだったので、夫は水泳を教え、陸上ではマラソンに出場させました。今でも週２回、夫が自転車で淳を追いながら「共働舎花の会」から家まで走って帰り、ジムに行きます。淳は笑顔で、それが二人の趣味にもなりました。

３歳年下の妹は、小さい頃より兄をよく看てくれました。私が仕事で手が離せず、具合の悪くなった淳を小学生の妹が中学まで迎えに行ったこともありました。生まれてからずっと側にいるので、彼女にはそれほど苦でもなく、他の障害児にも基本やさしく接せられることが一つの特技となり、教職に就きました。

うちの父は頑固で古い人でしたが、淳に出会ってから障害者にやさしくなり、入院していた部屋でも知的障害の青年と仲良くなりました。

私は教師をする中で、生徒に対する目も変わりました。「なぜ言うことを聞かないのか」から「そういうこともあるのだろう」と。退職後は、より花の会と関わるようになり、家族会・花の会の役員や提供された着物の値付けなど、今ではチューリップでお客さんと話すのが生活の一部となりました。

淳は齢を重ね、できたことも増えたけれど、こだわりが一層強くなりできなくなったことも増えました。熱心に教育されたからといって結果が出ないのも障害ゆえのことです。

家族の想いとは、淳中心に回ってきた年月への感慨です。でも、いつまでもこうしていられるわけもなく、いずれホームにも入り更にお世話になることは承知しています。花の会の職員の方々にお願いする言葉は、先年兄弟の会で淳の妹が言った一言「大事にしてやってほしい」、それだけです。

花の会作品展のこれまでの取り組みとこれから

花の会作品展の取り組みは、2009 年度から、みんなの会代表と職員数名が実行委員となり企画・提案等行い、スタートをきりました。第１回目の作品展は、主にさをり織と、当時日中活動で取り組んでいた陶芸を中心にしたもので、芥川商店街の近くにあるギャラリーをお借りして開催しました。第２、３回目は、ＪＲ高槻西口近くにある近畿労金様の店舗のスペースにて開催。花の会の関係者だけでなく、一般の方にも自主製品、作品を見ていただく機会を得ました。

第４回目からは、会場をアクトアモーレ（平和堂１階通路）に移し、コロナ禍で中止になった 2020 年度を除いては、現在に至るまで、年に１回のペースで開催しています。

花の会タイム（日中活動（生活介護）の余暇活動時間の名称）・クラブ活動等で作った、メンバーの造形物を発表する機会に恵まれず、地域の方に見てもらいたいという思いからスタートした作品展も、毎回約 150 点以上の出展数を数えるほどになり、絵画・貼り絵、切り絵、造形・写真・書道・グループ作品・・等、好きなこと（もの）、特技を発表する貴重な機会になっています。近年では、日中活動だけでなく、就労部門、児童部門、グループホーム部門（一般就労されている方など）からの出展も増え、さらに賑やかな作品展になっています。

今後については、「作品発表」の継続と、さらに「活動発表」、「物品販売（紹介）」を一体化した、花の会フェスタ（仮）のようなイベントを計画中です。発表を通じて花の会のことを知っていただくのはもちろんのこと、より多くの方に障害の有無に関わらず、自分らしく生きていける、多様性が受け入れられる社会の在り方について発信できればと思います。

（共働舎花の会　渡邊朋幸、さくらクラブ　平田昌史）

過去の作品展から

第２回花の会作品展 より

でーきたっ！

作品の展示風景

花の会作品展入賞作品選定の作業

活　動　報　告

	花の会			法人			日中活動		
８月				6 18 20	金 水 金	事務局会議 事務調整会議 法人事業運営会議	4 5 11 12 13～16 18 21 24～27	水 木 水 木 水 土 	企画会議 メンバー給料日 管理者会議 メンバーボーナス支給日 夏休み 全体調整会議(リモート) 土曜開所日 事業所別会議
９月	26	日	第173回花の会定例会中止 (資料配布のみ)	3 5 15 17	金 日 水 金	事務局会議 理事会 事務調整会議 法人事業運営会議	1 3 8 11 21～24	水 金 水 土 	企画会議 メンバー給料日 管理者会議 土曜開所日 事業所別会議
10月	18	月	役員会	1 4 15 16 18	金 月 金 土 月	事務局会議 昇格試験 法人事業運営会議 職員全体会議 事務調整会議	5 6 13 16 20 26～28 30	火 水 水 土 水 土	メンバー給料日 企画会議 管理者会議 職員全体会議 全体調整会議(リモート) 事業所別会議 土曜開所日 秋祭り

	地域生活			就労・相談			児童支援		
８月	6 12 13 17 23～25 26 30	金 木 金 火 木 月	運営会議 支援会議 身体拘束・行動制限廃止検証会議 レスパイト会議・研修 事例検討会 新入職員研修 正職研修 企画調整会議	4 10	水 火	運営会議 主担会議			
９月	3 8 10 16 21 24 29	金 水 金 木 火 金 水	運営会議 レスパイト会議 支援会議 身体拘束・行動制限廃止検証会議 企画調整会議 事例検討会 正職研修 レスパイト研修・避難訓練	1 7	水 火	運営会議 主担会議	3 8 15 21 30	金 水 水 火 木	高槻事業所連絡会全体会議 議事調整会議 全体会議、研修 あさがおクラブ指定時研修 高槻事業所連絡会全体会議
10月	1 8 13 18 20 21 22 25	金 金 水 月 水 木 金 月	運営会議 身体拘束・行動制限廃止検証会議 レスパイト会議 事例検討会 レスパイト研修 正職研修 内部研修 企画調整会議	6 11 12	水 月 火	運営会議 サポステ監査 主担会議	6 13 20 27	水 水 水 水	議事調整会議 全体会議 職員内部研修 管理者会議

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円

「公益信託　近藤きよ子記念福祉基金」助成金により取得した印刷機を使用して印刷された出版物です

後藤茂之 厚生労働大臣殿

グループホームの大再編に反対！！

最短で年内に社保審のまとめが終了、2022 年１月通常国会に改正障害者総合支援法案が上程見込み

賛同署名にご協力お願いします。

【私たちが考える問題点】

① グループホームは生活の場です。

・障害程度に関わらず、仲間とくらしたい人も、一人ぐらししたい人もいます。
グループホームは訓練の場ではありません。移行を希望する人への支援は重要ですが、支援区分で住む場所をふりわけるのは、「どこで誰と生活するかの選択」のさまたげになります。

② 自己決定を支援する。

・施設や病院から出て、自分のしたいくらしをさがしてゆくプロセスこそ、意思決定の支援であり、日々の生活をていねいに支援することがグループホームの大切な役割です。支援の効率化より、ひとりひとりの地域のくらしを大切にすべきです。
・個人単位のヘルパー利用を恒久的なしくみにするべきです。

③　障害当事者や現場の声を聞かずに、大きな変更が検討されています。

賛同者

氏　名	住　所

※メール・FAX・郵送、いずれの方法でも返信お待ちしております。
※個人情報取り扱いについて、署名頂いた内容についてはこれ以外の用途に使用いたしません。
※電子署名サイト、change.org においても署名できます。
　サイト内「https://www.change.org/gh-kinkyukodo」で検索下さい。

◆署名の締切日の設定は、10/31、11/10、11/30 となっていますので、間に合うように提出をお願いします。

グループホームの再編に反対する緊急行動ネットワーク
事務局：〒577-0832　東大阪市長瀬町 2-13-11
電話　06-4309-7667
FAX　06-4309-7668
kinkyukoudou@kusanone-k.com